

☆会員企業紹介☆

今回は有限会社 かんずりを訪問し、代表取締役の東條 昭人さん、営業部の東條 拓人さんに話を伺いました。

「(有)かんずり」は2022年9月に本社隣に新工場を設立しました。鉄筋コンクリート2階建てで、延べ床面積は約1000平方メートル。旧工場と比べ生産性が向上しただけではなく、食品安全マネジメントシステムに関する国際規格『ISO22000』を取得し、海外展開への準備を整えました。

海外展開を決めた経緯が興味深く、海外で暮らす日本人が日系スーパーでかんずりを入手し、そこから徐々に広まってきました。そして今から10年ほど前、海外からのオファーも入るようになった頃、本格的に海外展開へ力を入れていくことを決めたそうです。

海外では肉やパスタに合わせてかんずりが食べられているそうですが、近年世界で日本食文化が普及していることから、かんずりに含まれているゆずや麴の風味も受け入れられており、手ごたえを感じているとのことでした。

今ではアメリカをはじめ世界20か国で販売されており、総売上の1割を海外が占めるまでに成長したそうです。今後ますます海外の売上を伸ばしていきたいとのことでした。



有限会社 かんずり
 妙高市大字西条437-1
 電話 0255-72-3813 FAX 0255-72-0344

商工会議所 LOBO (早期景気観測) 2024年2月の動向

業況DIは、コスト増による需要停滞で、悪化続く 先行きは、人手不足と物価高の長期化で慎重な見方

●全産業合計の業況DIは、▲12.9 (前月比▲1.5ポイント)

小売業は、消費者の買い控えは継続するものの、好調な百貨店がけん引し、改善した。サービス業は、飲食・宿泊業を中心にインバウンド回復の恩恵を受けるも、人手不足やコスト増が下押しし、ほぼ横ばいとなった。建設業は、公共工事が下支えするも、資材価格の高止まり等で力強さを欠いた。また、製造業は、企業のコスト負担増による設備投資の足踏みを受け、機械器具関係等の需要減で悪化し、卸売業でも、これらの需要減による取引減少で悪化した。

物価が高止まりする中、円安や人材確保に向けた賃上げ等、コスト増が重荷となっている。深刻な人手不足や価格転嫁等の構造的な課題も山積しており、中小企業の業況は悪化が続いた。

●先行き見通しDIは、▲13.6 (今月比▲0.7ポイント)

新年度を見据えた人流の増加による個人消費の拡大や、企業の新たな設備投資等の取組みへの期待感がうかがえる。

一方、深刻な人手不足による受注機会の損失や、長引く物価高による買い控えの継続など、国内需要の停滞が懸念される。コスト増が継続する中、持続的な賃上げに向けた労務費を含む価格転嫁の推進や生産性向上、人材確保などの対応すべき課題が多く、先行きは慎重な見方となっている。

業況DI(※DI=「好転」の回答割合-「悪化」の回答割合)

	2023年	2023年	10月	11月	12月	1月	2024年	先行き見通し 3~5月
	2月	9月					2月	
全産業	▲19.4	▲9.0	▲10.5	▲9.7	▲8.4	▲11.4	▲12.9	▲13.6
建設	▲31.9	▲16.5	▲14.3	▲11.7	▲11.0	▲12.3	▲13.0	▲13.7
製造	▲18.4	▲8.5	▲9.3	▲10.2	▲8.1	▲13.4	▲17.0	▲15.8
卸売	▲16.4	▲19.7	▲20.6	▲12.0	▲6.9	▲10.4	▲19.2	▲23.3
小売	▲25.9	▲9.2	▲16.0	▲18.7	▲20.8	▲16.2	▲14.4	▲16.0
サービス	▲8.6	0.2	0	0.2	2.4	▲5.2	▲4.4	▲4.8

詳細は『<https://cci-lobo.jcci.or.jp/>』をご覧ください